

第5節 開館

<平成16年(2004)～平成17年(2005)>

開館前夜

①国、福岡県の動き

平成16年(2004)2月、東京国立博物館において「はじめの一步」展(2月17日～3月28日)が開催された。本展は、開館に先駆けて九州国立博物館(仮称)設立準備室の主催により実施したものであり、「唐物と茶」、「銀の島日本と南蛮美術」、「長崎貿易」の3つのテーマを掲げた展示や修理作品のお披露目を行った。会期中、約2万人が来場した。



同年3月、九州国立博物館(仮称)の建物が完成した。4月6日には、建物に埋め込む「定礎板」の揮毫者への記念品授与式を実施した。九州国立博物館(仮称)設立準備室では、地元の人たちに親しまれる博物館になることを目指し、そのシンボルとして「定礎」の文字を太宰府市内の中学校から募集した。その結果、当時太宰府市立太宰府東中学校の2年生であった古賀由夏さんの作品が採用された。



記念品授与式(西日本新聞社撮影) 定礎の文字



平成16年(2004)4月19日には、九州国立博物館(仮称)設立準備室の職員の大半が、東京事務所から太宰府市へ移転し、いよいよ開館に向けてのラストスパートを切ることとなった。5月9日、九州国立博物館(仮称)竣工式が行われた。式典には国や県、地元自治体から関係者や市民ら約350人が出席し、式典後の館内見学では、三輪嘉六設立準備室長

が来賓らに対して文化交流展示室や特別展示室の案内を行った。



竣工式の様子

- 平成16年(2004)10月9日、文化庁、独立行政法人国立博物館及び福岡県は、以下の内容を発表した。
- ・博物館の正式名称を「九州国立博物館(KYUSHU NATIONAL MUSEUM)」とすること。
 - ・平成17年(2005)10月15日に開館記念式典を行い、翌16日から一般公開を開始すること。
 - ・博物館の特徴である、穏やかな屋根をデザインしたシンボルマーク



九州国立博物館のシンボルマーク

※シンボルマークの説明

- ・丸い点は、古来アジア諸地域との交流の窓口であったこの地を表している。また、そこから流れる緩やかな波線が、山並み、海、風、自然、そして古くからアジア諸地域との交流を続けてきた時の流れと新しい文化交流を表現している。
- ・筆書きにより、いままでにない新しい時代の「生きている博物館」を象徴。
- ・色彩には、周辺環境と建物のガラスに映る青い空(ブルー)と緑の山々(グリーン)、太陽の昇る国・日本(オレンジ)を用いている。

平成17年(2005)2月、東京国立博物館において「ホップ・ステップ・九博」展(2月15日～4月10日)が開催された。前述の「はじめの一步」展に続く2つめの企画であり、本展では、青銅器の系譜やアジア

開館10周年記念

九州国立博物館史

発行日 ◆ 平成28年(2016)3月

発行 ◆ 九州国立博物館

印刷・製本 ◆ 株式会社ぎょうせい

題字：島谷 弘幸(九州国立博物館長)